

「税金を芸術分野に使ってください」

富山県立高岡工芸高等学校一年 魚住 咲月

昨年十二月に、母と東京で「国宝、東京国立博物館のすべて」を鑑賞しました。国宝だけの特別展は非常に注目を集め、コロナ禍下にも関わらず常時チケットは完売状態でしたが、会期が延期されてどうにかチケットを入手することができました。国宝も素晴らしいものばかりでしたが、初めて訪れた東京国立博物館の施設は、収蔵作品以上に素晴らしいもので、「訪れてよかった。」と心から思いました。

その直後のことです。東京国立博物館の館長が、現在の予算では博物館と収蔵されている文化財を維持できず予算の増加を財務省に求めたが、国からの交付金は変わらなかったという記事を見つけました。

古い文化財の多くは適度な湿度と温度で保存し続ける必要があります、そのために設備維持費が高額になってしまうそうです。東京国立博物館収蔵品・芸術作品に限らず、今後も十分な予算が計上されなければ、日本の博物館・美術館の収蔵品・芸術作品が損なわれるのは時間の問題なのです。

これまで、収蔵品や文化財の維持管理に膨大なお金がかかっていることを考えたことはありませんでした。

私は美術館に行ったり、企画展を鑑賞するのが好きなので、国民の税金が芸術分野に使われていることを嬉しく思う一方で、芸術分野は後回しになっている現実を問題視されてないことを疑問に感じました。

そんな頃に、東京芸術大学が電気代高騰に伴う経費削減を一つの理由に、一部の練習室のピアノを撤去し、売却したという報道を知りました。

防衛費や社会保障費の増額のしわ寄せが他の予算の削減に繋がり、芸術分野への税金の投入は後回しになっているのが今の日本の実情であることは間違いないと思います。

私の通う富山県立高岡工芸高校には、工芸科とデザイン・絵画科があって、芸術の勉強をすることができます。学校見学に来たときに実習棟を見て、初めて見る設備にとっても感動して、この学校に入学しました。

公立高校の教育は税金で賄われていてほぼ無償化されているから、私はこの高校で税金の恩恵の下、充実した芸術の勉強をできています。

しかし、今後行政が芸術分野への税金の投資を後回しにすれば、将来学びを生かす場や芸術に触れる場も失われるのではないかととても危惧しています。

私は地方公共団体や国の首長に、防衛や社会保障と同じように、芸術施設や教育の充実に目を向けてほしいと思います。国宝や芸術作品が損なわれないように、そして芸術を学ぼうとする学生の学びの場が失われないよう税金を使ってほしいと願っています。